

直轄工事における総合評価方式の実施状況 (平成21年度 年次報告)

国土技術政策総合研究所

作成の目的について

- 本年次報告は、国土交通省における総合評価方式の現況を取りまとめ、公表することにより、同方式の普及・拡大、ダンピング防止策、入札契約制度に関する諸課題への確実な対応に資することを目的として作成するものである。

【構成】

1. 平成21年度 年次報告のポイント
2. 総合評価方式の実施状況
 - 2-1. 普及・拡大の状況
 - 2-2. 高度技術提案型の実施状況
 - 2-3. 技術評価の実施状況
 - 2-4. 標準型における評価項目
 - 2-5. 簡易型における評価項目
 - 2-6. 落札者の状況
 - 2-7. 施工体制確認型の実施状況

1. 平成21年度 年次報告 のポイント

P.1

1. 平成21年度 年次報告のポイント

(1) 普及・拡大の状況

- 平成21年度における総合評価方式の適用率は件数ベースで99.2%、金額ベースでは99.6%となり、ほぼ100%の適用状況となっている。【P6、P7】
- タイプ別では、件数ベースで最も多いのは簡易型の6,737件(全体に占める割合60.5%)であるが、金額ベースでは標準型の9,113億円(同61.3%)で、平成20年度と傾向は変わらない。【P6、P7】
- また、早期発注対策として実施した実績重視型は2,796件(同25.1%)、2,050億円(同13.8%)を占めた。【P6、P7】

(2) 高度技術提案型の実施状況

- 平成21年度における高度技術提案型の実施件数は6件(同0.05%)、実施金額は91億円(同0.6%)であり、平成20年度と比較して13件、806億円減少した。その主な理由は、平成21年度において早期発注による手続き期間の短縮、大規模事業の見直しによる発注方針の変更等が考えられる。【P8】

P.2

1. 平成21年度 年次報告のポイント

(3) 技術評価の実施状況

- 加算点合計に占める技術評価点の割合は、標準型(Ⅰ型)、標準型(Ⅱ型)、簡易型、実績重視型のいずれも90%以上となる件数が過半数を超えている。【P9】
- 各評価項目の配点率は、標準型(Ⅰ型)では、ほとんどの地方整備局で「技術提案」の配点率を50%以上としており、90%以上としている地方整備局があるが、40%以下としているところもあり、相違がみられる。一方、標準型(Ⅱ型)では、「技術提案」の配点率が20%~60%程度となっている。簡易型では、約半数が10%~30%程度の配点率となっている。【P10、P11】
- コンクリート構造物工事と土工事の技術提案課題の配点率は、標準型(Ⅰ型)、標準型(Ⅱ型)いずれも、ほとんどの地方整備局で「性能・機能」の配点率が高くなっている。一方、「交通の確保・特別な安全対策」の配点率が高い地方整備局もある。【P12、P13】

(4) 標準型における評価項目

- 平成21年度において、「技術提案」に次いで各評価項目の採用率が高いのは、標準型(Ⅰ型)、標準型(Ⅱ型)ともに「企業の施工能力」と「配置予定技術者の能力」である。また、落札者と非落札者で得点率に差がついているのは、平成21年度において、標準型(Ⅰ型)は「ヒアリング」、標準型(Ⅱ型)は「地理的条件」である。【P14、P15】
- 技術提案に係る具体的な課題の設定状況について、平成21年度において、採用率が高いのは標準型(Ⅰ型)では「コンクリートの耐久性向上」、標準型(Ⅱ型)では「安全施工対策」である。また、落札者と非落札者の得点率に差がついているのは、平成21年度において、標準型(Ⅰ型)は「安全施工対策」、標準型(Ⅱ型)は「コンクリートの耐久性向上」である。【P16、P17】

P.3

1. 平成21年度 年次報告のポイント

(5) 簡易型における評価項目

- 簡易型の評価項目のうち、平成21年度において採用率が特に高いのは、「企業の施工能力」、「配置予定技術者の能力」で、ほぼ100%であり、次いで「地域貢献の実績」も高い。また、簡易型の評価項目のうち、平成21年度において、落札者と非落札者で得点率に差がついているのは、「ヒアリング」、「地理的条件」である。【P18、P19】

(6) 落札者の状況

- 加算点の平均は、標準型(Ⅰ型)50.1点、標準型(Ⅱ型)36.8点、簡易型28.2点、実績重視型26.6点、最高得点者(最低価格者以外)が落札した割合は、標準型(Ⅰ型)56.4%、標準型(Ⅱ型)31.8%、簡易型26.3%、実績重視型27.7%となっており、いずれも技術評価を重視する度合いが大きいほど高い割合・配点となっている。これは、平成20年度と傾向は変わらない。【P20~P22】

(7) 施工体制確認型の実施状況

- 施工体制確認型を導入した場合の平均工事成績評定点は75.4点で、導入しない場合と比較して1.7点高い。【P23】

P.4

2. 総合評価方式の実施状況

2-1. 普及・拡大の状況

- 平成21年度における総合評価方式の適用率は件数ベースで99.2%となり、ほぼ100%の適用状況となっている。
- タイプ別では、最も多いのは簡易型の6,737件(全体に占める割合60.5%)で、最も少ないのは高度技術提案型の6件(同0.05%)である。また、早期発注対策として実施した実績重視型(簡易型の内数、以下同じ)は2,796件で、全総合評価件数の25.1%を占めた。

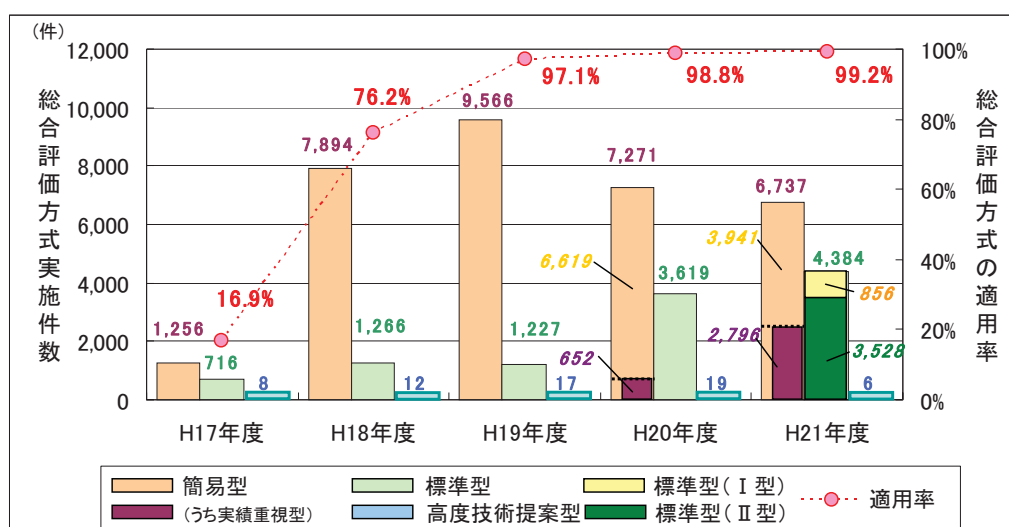


図1 年度別・タイプ別の実施状況(件数)

注1)8地方整備局における実施件数。

注2)適用率は随意契約を除く全発注工事件数に対する総合評価方式実施件数の割合。

2-1. 普及・拡大の状況

- 平成21年度における総合評価方式の適用率は金額ベースで99.6%となり、ほぼ100%の適用状況となっている。
- タイプ別では、最も多いのは標準型の9,113億円(全体に占める割合61.3%)で、最も少ないのは高度技術提案型の91億円(同0.6%)である。また、早期発注対策として実施した実績重視型は2,050億円で、全総合評価案件数の13.8%を占めた。

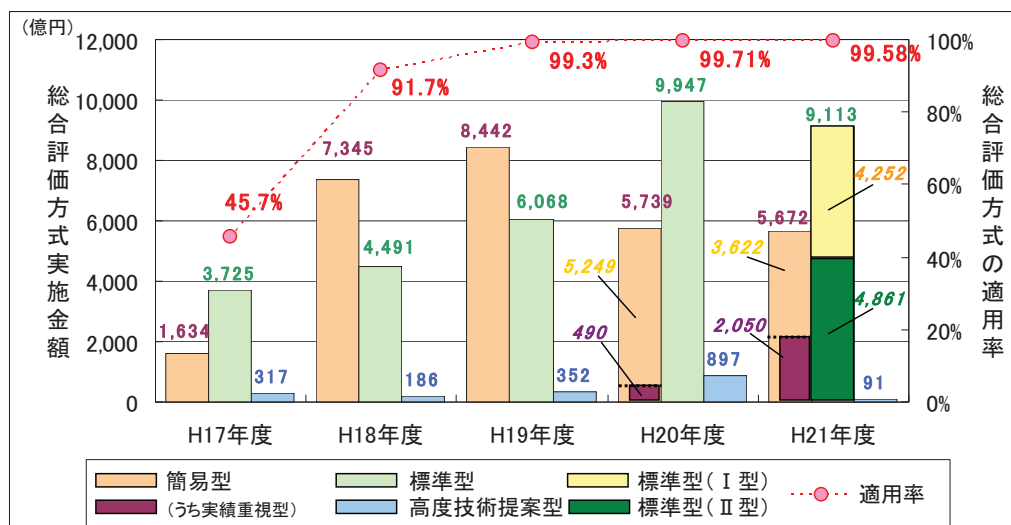


図2 年度別・タイプ別の実施状況(金額)

注1) 8地方整備局における当初実施金額。

注2) 適用率は随意契約を除く全発注工事金額に対する総合評価方式実施金額の割合。

P.7

2-2. 高度技術提案型の実施状況

- 高度技術提案型は、平成18～21年度において、一般土木、鋼橋上部、プレストレストコンクリートの各工種において実施する機会が多く、件数ベースで47件(全体に占める割合87.0%)、金額ベースで1,366億円(同89.5%)である。
- 平成21年度において、高度技術提案型の実施件数が減少した主な理由は、早期発注による手続き期間の短縮、大規模事業の見直しによる発注方針の変更等が考えられる。

〔高度技術提案型〕

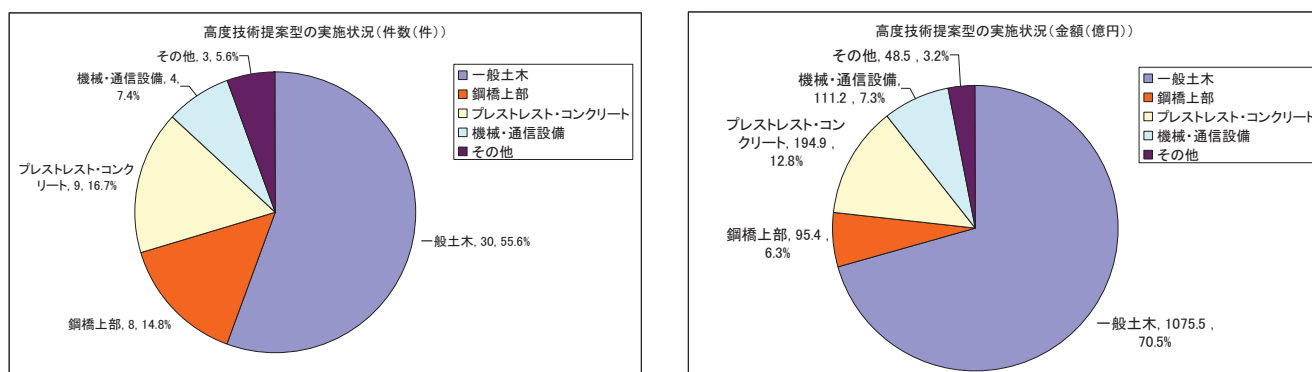


図3 高度技術提案型 件数と金額(平成18年度～平成21年度)

注1) 8地方整備局を対象。(以降、P9～P14も同様)

注2) 全工種を対象。

P.8

2-3. 技術評価の実施状況

・満点(標準点+加算点満点+施工体制点)に占める技術評価点の割合は、標準型(Ⅰ型)、標準型(Ⅱ型)、簡易型、実績重視型の何れも90%以上となる件数が過半数を超えており、それぞれ63.4%、65.7%、80.9%、84.7%を占めている。

〔標準型(Ⅰ型)〕

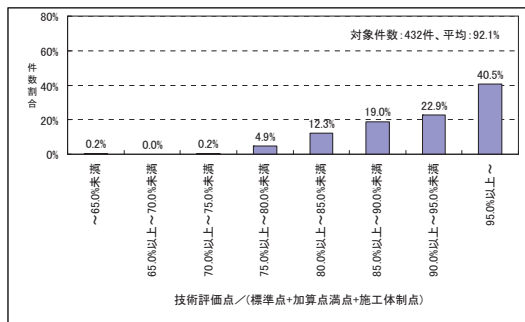


図4 技術評価点の分布(平成21年度)

〔標準型(Ⅱ型)〕

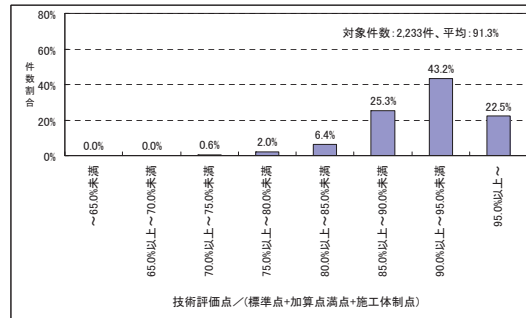


図5 技術評価点の分布(平成21年度)

〔簡易型〕

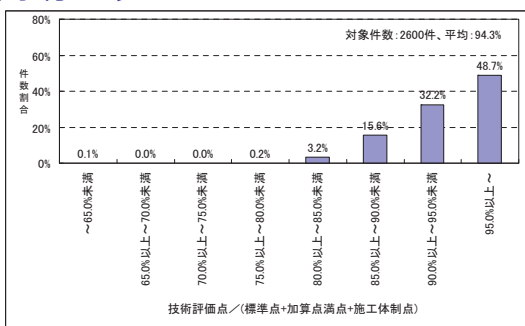


図6 技術評価点の分布(平成21年度)

〔うち実績重視型〕

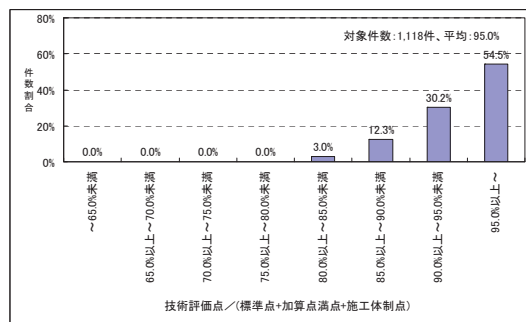


図7 技術評価点の分布(平成21年度)

注1) 主要4工種(一般土木、AS舗装、PC、鋼橋上部工)に該当する工事を対象。(以降、P11~P13も同様)

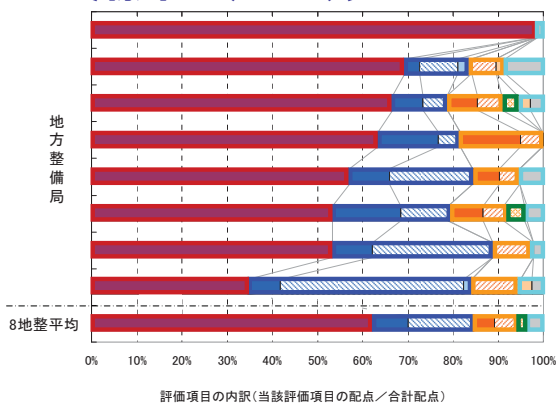
P.9

2-3. 技術評価の実施状況

・標準型(Ⅰ型)では、ほとんどの地方整備局で、「技術提案」の配点率を50%以上としており、90%以上としている地方整備局があるが、40%以下としているところもあり、相違がみられる。標準型(Ⅱ型)では、「技術提案」の配点率が20%~60%程度となっている。

・「技術提案以外」の配点率は、たとえば「企業の施工能力」を高く設定している地方整備局もあれば、「企業の施工能力」と「配置予定技術者の能力」の配点率を同程度に設定している地方整備局もあるなど、標準型(Ⅰ型)、標準型(Ⅱ型)ともに、配点率に相違がみられる。

〔標準型(Ⅰ型)〕



〔標準型(Ⅱ型)〕

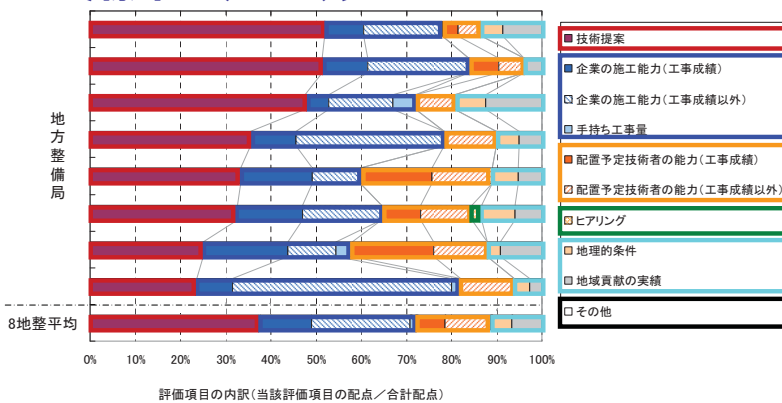


図8 地方整備局別 各評価項目の配点率(標準型) (平成21年度)

注1) 平成21年度の契約工事のうち、各評価項目の詳細配点が確認でき、かつ主要4工種(一般土木、AS舗装、PC、鋼橋上部工)に該当する工事を対象。

注2) 配点率は、合計に対する当該評価項目の配点の割合

P.10

2-3. 技術評価の実施状況

- ・簡易型では、「簡易な施工計画」を設定していない地方整備局もあるが、約半数が10%～30%程度の配点率となっている。
- ・「簡易な施工計画以外」の配点率は、たとえば「企業の施工能力」を高く設定している地方整備局もあれば、「企業の施工能力」と「配置予定技術者の能力」の配点率を同程度に設定している地方整備局もあるなど、簡易型、実績重視型ともに、配点率に相違がみられる。

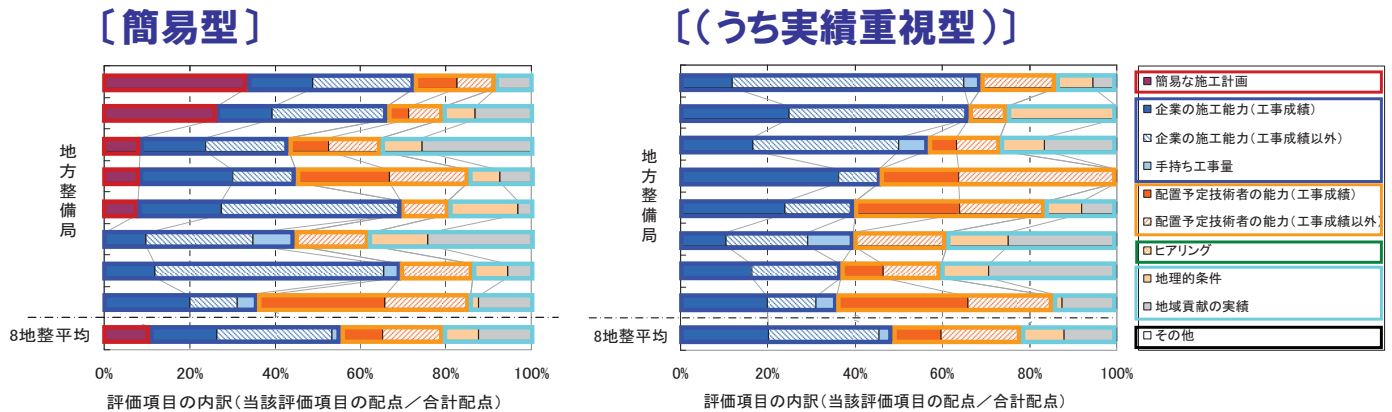


図9 地方整備局別 各評価項目の配点率(簡易型) (平成21年度)

注1) 平成21年度の契約工事のうち、各評価項目の詳細配点が確認でき、かつ主要4工種(一般土木、AS舗装、PC、鋼橋上部工)に該当する工事を対象。
 注2) 配点率は、合計に対する当該評価項目の配点の割合

2-3. 技術評価の実施状況

- ・コンクリート構造物工事は、標準型(Ⅰ型)、標準型(Ⅱ型)のいずれも、ほとんどの地方整備局で「性能・機能」の配点率が高くなっている。一方、「交通の確保・特別な安全対策」の配点率が高い地方整備局もある。

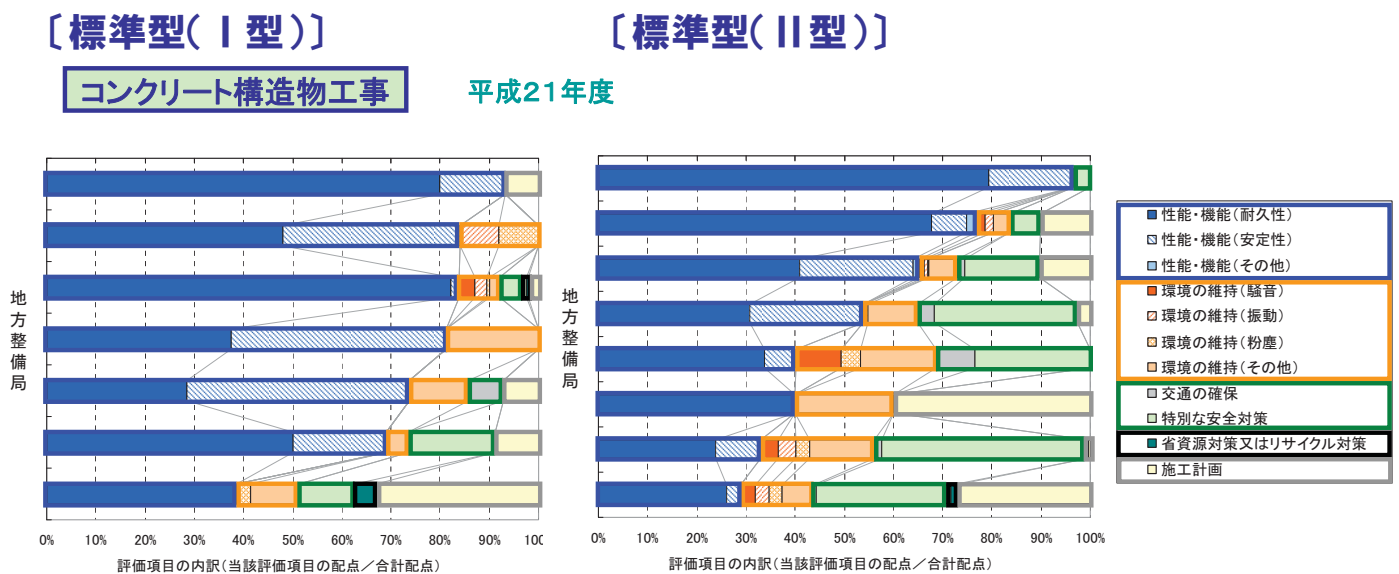


図10 地方整備局別 技術提案課題の配点率(標準型)

注1) 平成21年度の契約工事のうち、各評価項目の詳細配点が確認でき、CORINSデータとマッチングできた工事を対象。当該工事が無い地方整備局もある。
 注2) 配点率は、合計に対する当該評価項目の配点の割合

2-3. 技術評価の実施状況

・土工事は、標準型(Ⅰ型)、標準型(Ⅱ型)のいずれも、ほとんどの地方整備局で「性能・機能」の配点率が高くなっている。一方、「交通の確保・特別な安全対策」の配点率が高い地方整備局がある。(なお、「性能・機能」及び「環境の維持」だけの地方整備局はマッチングできた工事が1件である。)

〔標準型(Ⅰ型)〕

土工事

平成21年度

〔標準型(Ⅱ型)〕

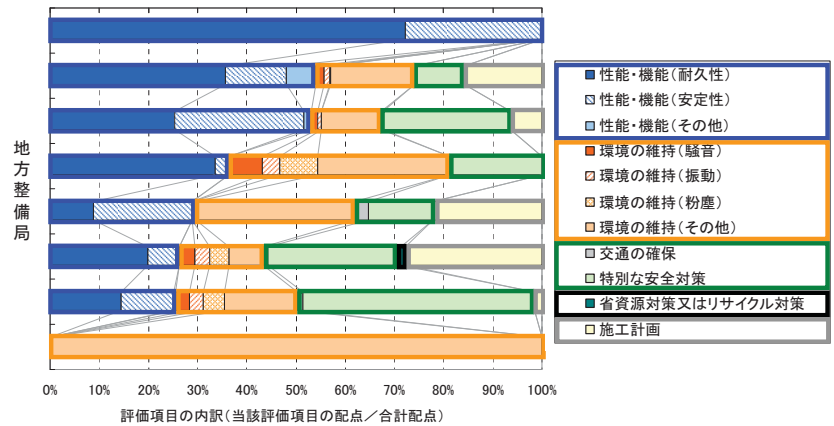
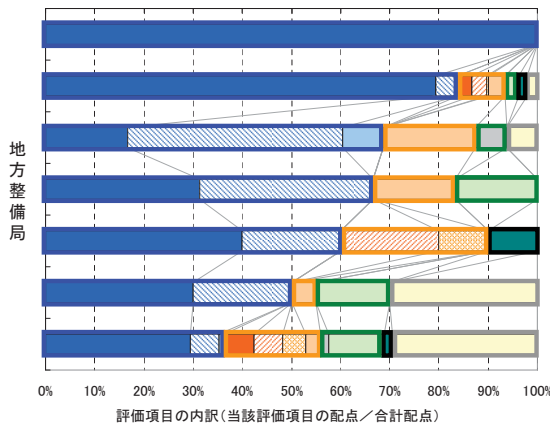


図11 地方整備局別 技術提案課題の配点率(標準型)

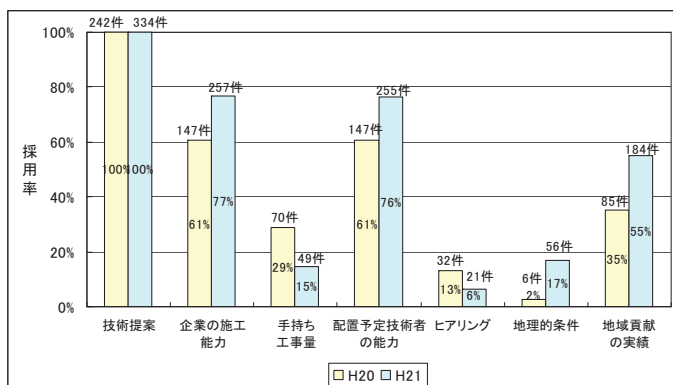
注1) 平成21年度の契約工事のうち、各評価項目の詳細配点が確認でき、CORINSデータとマッチングできた工事を対象。当該工事が無い地方整備局もある。
注2) 配点率は、合計に対する当該評価項目の配点の割合

P.13

2-4. 標準型における評価項目

・標準型(Ⅰ型)の評価項目のうち、平成21年度において、「技術提案」に次いで採用率が高いのは、「企業の施工能力」と「配置予定技術者の能力」である。
・標準型(Ⅱ型)の評価項目のうち、平成21年度において、「技術提案」に次いで採用率が高いのは、「企業の施工能力」と「配置予定技術者の能力」である。

〔標準型(Ⅰ型)〕



〔標準型(Ⅱ型)〕

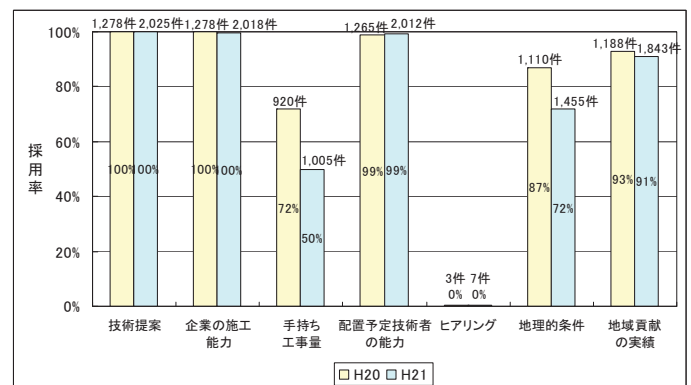


図12 各評価項目の採用率(平成20年度、平成21年度)

注1) 採用率: 総合評価方式の全適用工事に対する当該評価項目の採用工事の割合。
注2) 平成20年度、平成21年度の契約工事のうち、主要4工種(一般土木、As舗装、PC、鋼橋上部工)に該当する工事を対象。

P.14

2-4. 標準型における評価項目

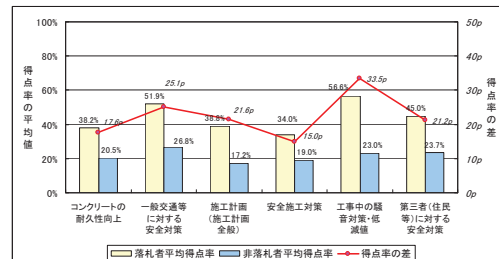
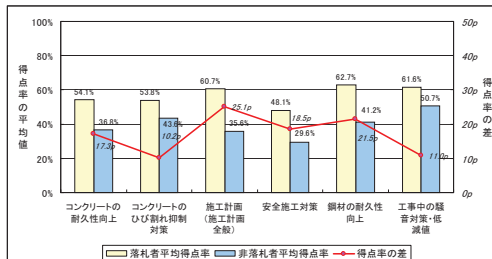
・標準型(Ⅰ型)の評価項目(技術提案)のうち、平成21年度において、落札者の得点率の平均値が高いのは「工事中の騒音対策・低減値」、「安全施工対策」である。また、落札者と非落札者で得点率に差がついているのは、「安全施工対策」、「鋼材の耐久性向上」である。

・標準型(Ⅱ型)の評価項目(技術提案)のうち、平成21年度において、落札者の得点率の平均値が高いのは「工事中の騒音対策・低減値」、「コンクリートの耐久性向上」、及び「第三者(住民等)に対する安全対策」である。また、落札者と非落札者で得点率に差がついているのは、「コンクリートの耐久性向上」、「工事中の騒音対策・低減値」である。

〔標準型(Ⅰ型)〕

〔標準型(Ⅱ型)〕

平成20年度



平成21年度

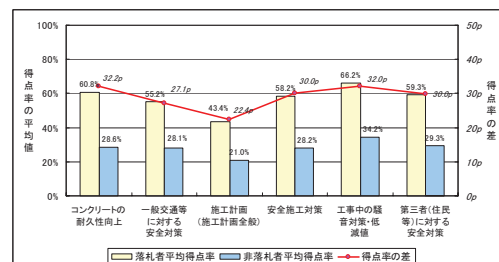
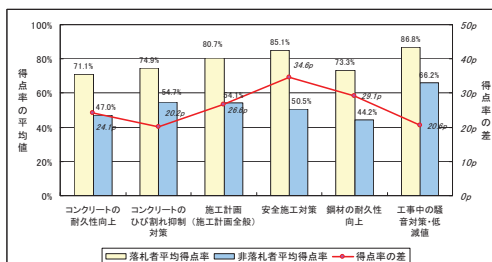


図15 各評価項目の落札者と非落札者の得点率と得点率の差(平成20年度、平成21年度)

注1) 得点率: 各評価項目の配点に対する得点の割合。

注2) 得点率の差: 落札者と非落札者の平均得点率の差。

注3) 平成20年度、平成21年度の契約工事のうち、主要4工種(一般土木、As舗装、PC、鋼橋上部工)に該当する工事を対象。

P.17

2-5. 簡易型における評価項目

・簡易型の評価項目のうち、平成21年度において採用率が特に高いのは、「企業の施工能力」、「配置予定技術者の能力」で、ほぼ100%の採用率であり、次いで「地域貢献の実績」も高い。「ヒアリング」については採用がほとんどない。

・実績重視型についても平成21年度における採用率の傾向はほぼ同様である。

〔簡易型〕

〔うち実績重視型〕

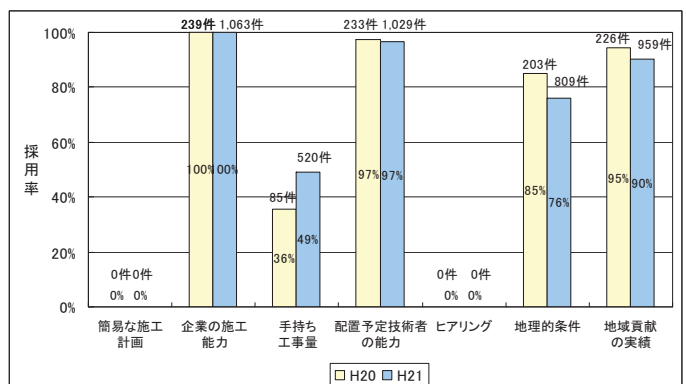
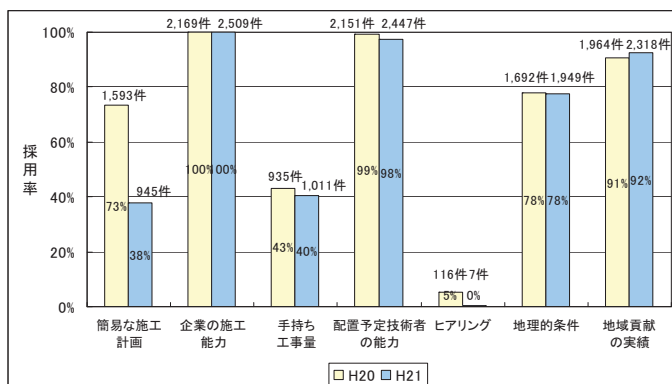


図16 各評価項目の採用率(平成20年度・21年度)

注1) 採用率: 総合評価方式の全適用工事に対する当該評価項目の採用工事の割合。

注2) 平成20年度、平成21年度の契約工事のうち、主要4工種(一般土木、As舗装、PC、鋼橋上部工)に該当する工事を対象。

P.18

2-5. 簡易型における評価項目

- ・簡易型の評価項目のうち、平成21年度において、得点率の平均値が高いのは「ヒアリング」、「地理的条件」、及び「簡易な施工計画」である。また、落札者と非落札者で得点率に差がついているのは、「ヒアリング」、「地理的条件」である。（ただし、「ヒアリング」を採用している工事件数は7件である。）
- ・実績重視型についても、平成21年度における全体の傾向は「簡易な施工計画」「ヒアリング」（採用なし）を除いて簡易型とほぼ同様である。

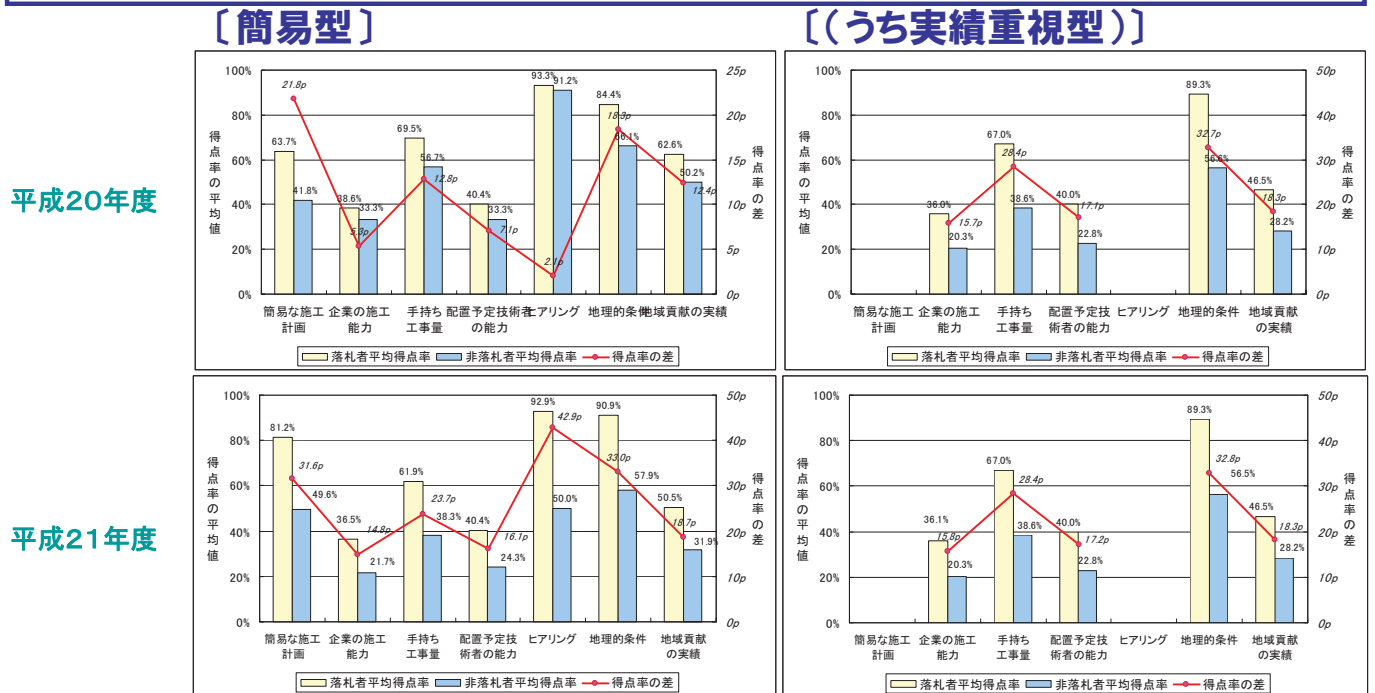


図17 各評価項目の落札者と非落札者の得点率と得点率の差

- 注1) 得点率: 各評価項目の配点に対する得点の割合。
 注2) 得点率の差: 落札者と非落札者の平均得点率の差。
 注3) 平成20年度、平成21年度の契約工事のうち、主要4工種（一般土木、As舗装、PC、鋼橋上部工）に該当する工事を対象。

P.19

2-6. 落札者の状況

- ・加算点の平均は、標準型(Ⅰ型)50.1点、標準型(Ⅱ型)36.8点、簡易型28.2点、実績重視型26.6点となっており、技術評価を重視する度合いが大きいほど高い配点となっている。
- ・加算点数別では、標準型(Ⅰ型)は加算点を50点以上とした件数が53.4%を占める一方、その他の型は、全て30~40点とした件数が最も多く、標準型(Ⅱ型)63.0%、簡易型60.9%、実績重視型63.7%を占める。

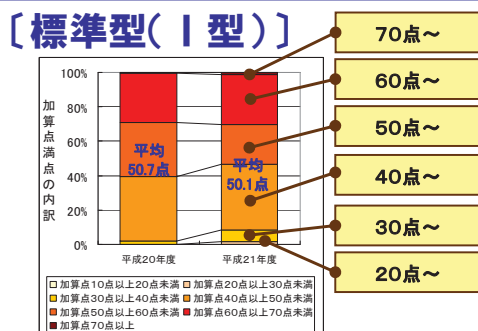


図18 年度別: 加算点満点の内訳

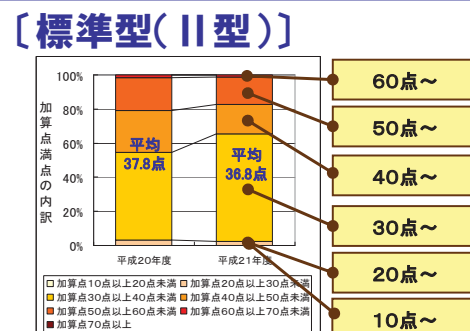


図19 年度別: 加算点満点の内訳

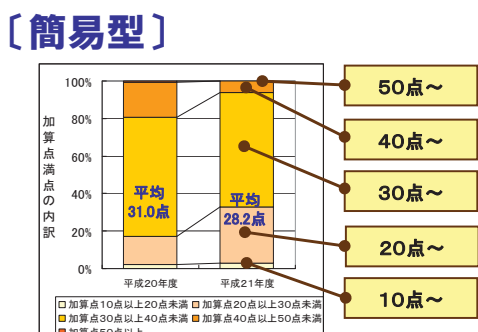


図20 年度別: 加算点満点の内訳

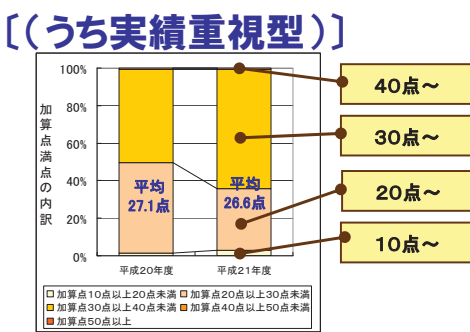


図21 年度別: 加算点満点の内訳

注1) 予定価格内1者の工事を除く。(以降、P21~P22も同様。)

注2) 主要4工種（一般土木、AS舗装、PC、鋼橋上部工）に該当する工事を対象。

P.20

2-6. 落札者の状況

・最高得点者(最低価格者以外)が落札した割合は、標準型(Ⅰ型)56.4%、標準型(Ⅱ型)31.8%、簡易型26.3%(実績重視型は27.7%)となっており、技術評価を重視する度合いが大きいほど高い割合となっている。

〔標準型(Ⅰ型)〕

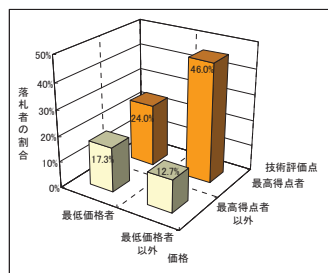


図22 落札者の内訳 (平成20年度)

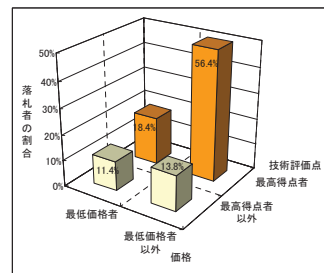


図23 落札者の内訳 (平成21年度)

〔標準型(Ⅱ型)〕

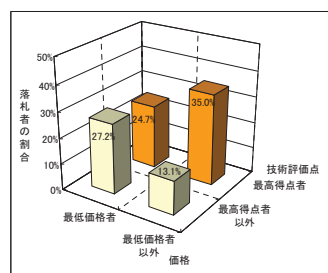


図24 落札者の内訳 (平成20年度)

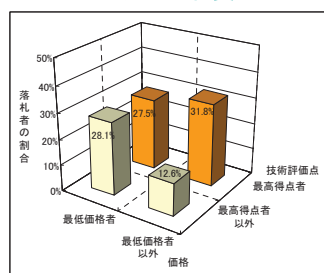


図25 落札者の内訳 (平成21年度)

P.21

2-6. 落札者の状況

〔簡易型〕

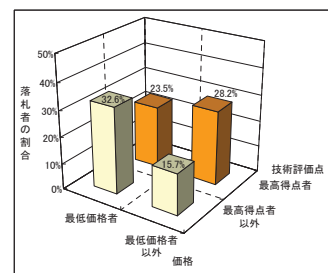


図26 落札者の内訳 (平成20年度)

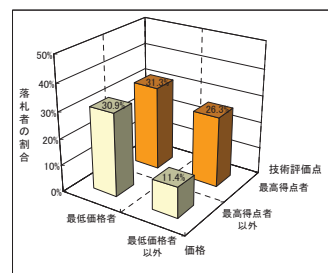


図27 落札者の内訳 (平成21年度)

〔(うち実績重視型)〕

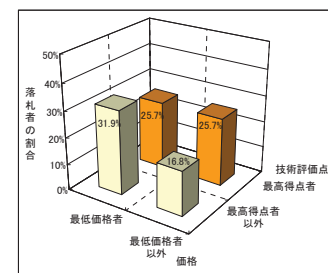


図28 落札者の内訳 (平成20年度)

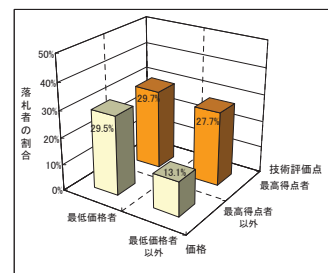


図29 落札者の内訳 (平成21年度)

P.22

2-7. 施工体制確認型の実施状況

- ・施工体制確認型を導入した場合の平均工事成績評定点は75.4点で、導入しない場合と比較して1.7点高い。
- ・工種別に、施工体制確認型を導入した場合と導入しない場合における工事成績評定点を比較すると、何れの工種においても、導入した場合の方が高い値を示しており、特に、建築(2.3点差)、一般土木(2.2点差)、AS舗装(1.6点差)の差が大きい。
- ・落札率も、何れの工種においても、導入した場合の方が高い値を示しており、特に、電気設備(11ポイント)、造園(9ポイント)、建築(9ポイント)の差が大きい。

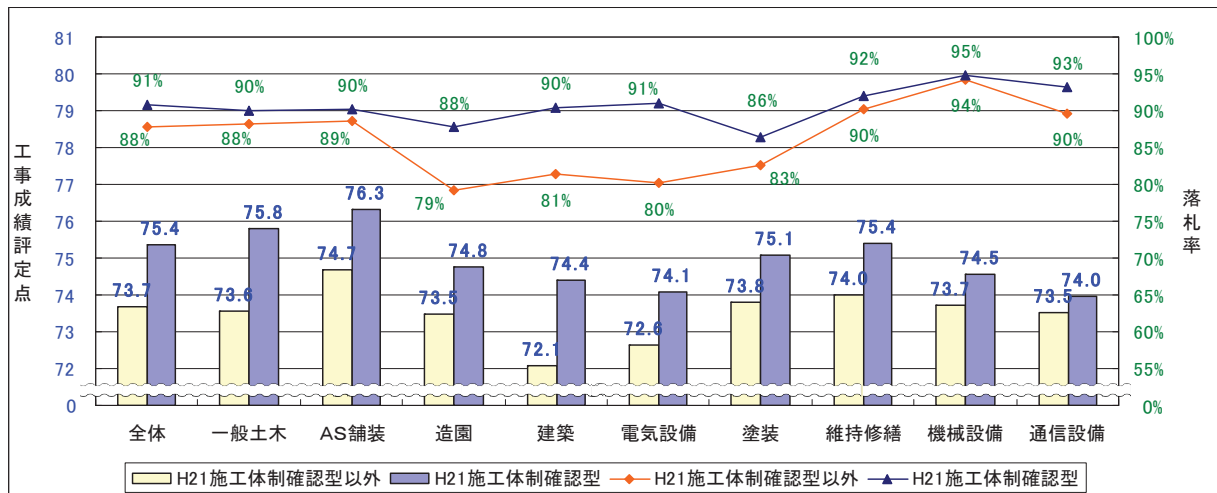


図30 工種別 工事成績評定点と落札率の状況 (平成21年度)

注1) 工種別は、平成21年度の実施件数が100件以上の工程を対象。